

## 膀胱瘤に対する補中益気湯の使用経験

### Clinical Study of Kampo Medicine Hochu-ekki-to for Cystocele

○松崎 敦<sup>1)</sup>, 森田 辰男<sup>2)</sup>, 松崎 茂<sup>3)</sup>, 小林 裕<sup>4)</sup>

1) 国保 依田窪病院 泌尿器科, 2) 自治医科大学 泌尿器科学教室,  
3) まつぎクリニック, 4) 自治医科大学附属大宮医療センター 泌尿器科

Effect of Kampo medicine Hochu-ekki-to on urinary symptoms due to cystocele was studied. Symptoms and findings of chain urethrocytography were evaluated before and after the administration of Hochu-ekki-to. Their symptoms improved significantly without significant improvement in the findings of chain urethrocytography. These results suggest that Hochu-ekki-to is useful as the treatment of choice for the non-surgical management of patients with cystocele.

#### 【目的】

分娩歴のある高齢女性にみられる尿失禁や排尿困難は、膀胱瘤が原因であることが多い。その発生機転は、主に加齢や分娩による骨盤底筋群の支持組織機能の低下と考えられている。膀胱瘤に対しては様々な治療法があるが、既往歴や合併症を考慮した治療法の選択が必要である。

今回、膀胱瘤の保存的治療として漢方薬である補中益気湯を使用し、症状の改善を試みるとともに、チェーン尿道膀胱造影にて効果を他覚的に検討した。

#### 【方法】

膀胱瘤に伴う排尿障害を主訴とした分娩歴のある女性 30 名を対象とした。初診時にチェーン尿道膀胱造影を施行後、補中益気湯の内服を開始した。症例により抗コリン剤などを短期間併用した。内服 2 ヶ月から 6 ヶ月後、自覚症状を評価するとともに、再度チェーン尿道膀胱造影を施行し他覚的にも評価した。

#### 【結果】

高度の子宮下垂を伴う症例は、ペッサリーの使用で症状の改善がみられた。尿失禁を伴う症例では、抗コリン剤を 1,2 週間内服した後、補中益気湯単独で治療を継続したが、尿失禁の増悪はみられなかった。また、チェーン尿道膀胱造影の改善が有意でない症例でも、症状は有意に改善した。

#### 【結論】

他覚所見の改善に比べ、自覚症状が有意に改善する症例があり、膀胱瘤に伴う排尿障害の保存的治療として補中益気湯は有用であることが示唆された。